ふれあいと思いやりのまち
7.67むこう
むこう市社協だより
福祉パレット
No.104
平成17年3月31日発行
編集・発行
社会福祉法人 向日市社会福祉協議会
京都府向日市寺戸町西野辺１番地の７
向日市福祉会館内
TEL.075-932-1960 FAX.075-933-4425

「この人に聞く」

向日市社協では、福祉パレット第104号から、向日市内で社会福祉に携わって活躍しておられる方にインタビューを行い、その方の社会福祉活動の内容等をご紹介する「この人に聞く」コーナーを開設しました。

今回は、向日市民生児童委員連絡協議会会長の阿部武志さん（寺戸町在住）に民生児童委員活動の内容等についてお話を伺いました。

▼プロフィール

阿部さんが初めて民生児童委員になられたのは平成2年のことで、当時の区長や現職の民生児童委員からの推薦をきっかけに、民生児童委員になられたそうです。平成元年以降、6期連続で民生児童委員を務められ、今年で16年目を迎えられました。

平成5年からは向日市の北地区（物集女地区・寺戸地区）の民生児童委員協議会の代表に就任されるとともに、平成14年からは現職の会長に就任されました。

▼民生児童委員の活動

民生児童委員の活動は、地域住民の生活状態の把握や生活相談、情報提供・助言、社会福祉事業への支援等、その活動は多岐にわたっています。活動について、阿部さんにお話を伺ったところ、主に一人暮らしの高齢者の方から寄せられる生活相談に対する助言や支援等が多いそうです。また、最近の特徴としては、母子家庭の方からの生活相談が従来よりも多く寄せられるようになったそうです。

介護保険制度が施行され、高齢者の福祉サービスの利用が「措置から契約へ」と大きな変化を遂げたこの5年間を振り返られて、「向日市では、高齢者を対象にした事業が数多く実施されているので、事業を通して、高齢者の生活状態を把握することができる。特に、男性の高齢者の社会参加が少ないので、今後は、制度や形にとらわれずに、身近な地域で『気軽に集える場』が必要となってくるのではないか？」と話されました。

また、「最近、地域での母親同士の接点が少なくなってきているように思うので、主任児童委員との連携により、家庭訪問や実態調査を積極的に行い、母親たちから寄せられる生活相談に対して、地域住民の視点に立って、的確な助言をしていきたいと思う。」とも話されました。

▼ふれあいと思いやりのまちづくり

向日市社協では、平成13年度に策定した「地域福祉活動計画」において、「ふれあいと思いやりのまちづくり」をスローガンとして定め、日々地域福祉を推進しています。

阿部さんに「ふれあいと思いやりのまちづくりを実現させるために必要なことは？」と質問したところ、「安さと利便性ばかりが重視されている今日、近所付き合いをはじめとした人間関係の希薄化や各家庭の形態の差異が目立っているが、一人ひとりの価値観や相違点を互いに認め合えるようになれば、ふれあいと思いやりが溢れるまちづくりが可能になると思う。これからは地域住民一人ひとりがまちづくりに参加する時代なので、向日市民生児童委員連絡協議会としても、行政や社協と連携しながらまちづくりに参加し、地域住民の声を届けていきたい。」と熱く語っておられました。

向日市社協の広報誌「福祉パレット」に関するお知らせ

向日市社協の広報誌「福祉パレット」は、市民の皆様方から寄せられた善意である赤い羽根共同募金の配分金の一部を財源として、年に3回（7月・11月・3月）発行しています。

向日市社協では、今後も市民の皆様方に関心と親しみを持って読んでいただけるように、紙面の充実に努めていきたいと思っておりますので、「福祉パレット」に対するご意見やご感想、ご要望等がございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 向日市社協 総務係（TEL：932－1960）

広がれボランティアの輪

第1回 ボランティアフェスティバル開催

秋空が広がる向日市まつりの会場で、向日市社協ボランティア連絡会主催による「第１回ボランティアフェスティバル」が、300名以上の市民の皆様の参加を得て盛大に開催されました。このフェスティバルは、日頃のボランティア活動の成果を発表する場づくりと、広くボランティア活動への参加を呼びかけて、ボランティアの輪を広げていくことを目的に、今年初めて取り組まれました。

催し物は、ボランティア連絡会に所属する登録ボランティアグループが、日頃おこなっている活動内容を活かした「交流」と「体験」を中心に企画されたもので、交流コーナーでは、セラピー犬とのふれあいや、大正琴の生演奏に乗せた手話歌ミニコンサート、体験コーナーでは、車いす、点字、要約筆記の体験、ふれあいサロン体験として「タオル犬」の製作や、人気の絵手紙づくりなど、盛りだくさんな内容でした。特に子どもたちに人気だったのが、セラピー犬との交流と、絵手紙づくりでした。また、日頃のボランティアグループの活動の様子を紹介したパネル展示も同時におこなわれました。

セラピードッグとの交流

点字体験「自分の名前を打ってみよう」

ふれあいサロン体験
「タオルの犬を作ろう」

大正琴の生演奏と手話歌「ふるさと」

パネル展示「ボランティアグループの活動紹介」

地区社協活動のご紹介～パート2～

ふれあいと思いやりのまちづくり

向日地区社協編

向日市には、小地域（行政区）を単位として、8ヶ所（物集女・寺戸・森本・鶏冠井・上植野・向日・西向日・向日台）の地区社会福祉協議会（略称：地区社協）が設立されています。今回は、向日地区社協の活動をご紹介します。

向日地区社協では、去る1月7日（金）に、向日コミュニティセンターにおいて、向日区や長寿会、子ども会の協力を得て、『七草かゆと昔の遊び』という行事を開催されました。

当日は、長寿会の方々を中心に、七草かゆとぜんざいが調理され、行事に参加された約100名の高齢者の方々や子どもたちに振る舞われました。

その後、参加者同士でお手玉や福笑い、百人一首等の昔の遊びが賑やかに行われ、食事と遊びを通して、世代間交流を深められました。

向日区社協では、今回の行事以外にも、一人暮らしの高齢者を対象にした配食サービス活動や会食会、ふれあいサロン活動、地域福祉懇談会、芋掘り大会、餅つき大会等の様々な行事に取り組まれています。

向日市社協では、今後も福祉パレットにおいて、向日市内8ヶ所の地区社協活動を順番にご紹介していきますので、同活動に関心のある方は、お気軽に向日市社協までお問い合わせ下さい。

〈問い合わせ先〉
向日市社協 地域福祉係
（TEL:932－1961）

ヘルパーとともに パート9

夫唱婦随

寝たきりから自立へ

一口（いもあらい） 清 さん（77歳）
一口多喜乃さん（73歳）

向こう三軒両隣

一口さんは、若い頃は青年団長をされたり、民生委員や社協の役員を長きに渡り引き受けられる等、地域の福祉に貢献されました。

若くしてお父様を亡くされ、頼るところが無かったので兄弟で頑張ってきたし、ご近所に親切にしてもらって、有難かったとのことです。昔は福祉という言葉でなく、向こう三軒両隣での協力があった時代だったと、ご夫婦で言われます。

寝たきりで退院

平成10年4月、肝臓の病気の為、寝たきりの状態で退院されました。在宅は難しいから施設入所を考えたらどうかと言われ、具体的に施設を紹介されたそうです。

訪問看護ステーションから看護師さんが来て床ずれの処置、社協ヘルプセンターからヘルパーが全身清拭、洗髪、手足浴をさせてもらいました。

この時、奥さんは「口から食べる事が出来なかった。ストローも吸えずガーゼをぬらし吸わせていました。」と、献身的に介護されました。しかし、3ヶ月後の7月には再入院されます。8月には退院されましたが、一口さん自身は病気のためこの時期の記憶はほとんど無い、覚えていないということです。

めざましい回復にヘルパーも協力

二度目の退院後、訪問看護ステーションとヘルパー派遣もすぐ再開されました。今度は食欲も出て床ずれも回復し、室内の歩行訓練やシャワー浴が出来るまでになられました。また、週1回のデイサービスにも行かれるようになります。奥さんも食事を用意すると食べてくれたのが良かった、ホッと安心したと言われます。ヘルパーの援助も清拭から室内での歩行練習やシャワー浴へと体力の回復に合わせ変わっていきました。歯科衛生士さんの訪問、歯医者さんの往診も始まり元気になりたいという気力も出てこられました。翌年の5月には屋外を一人で杖歩行されるまでになられ、ヘルパーと近くの天神さんへ行くという楽しみが増えました。

近くの天神さんで

一口さんに元気になられた秘訣は何ですか？と聞くと、「足に未練があるからやろな。」と言われます。学生時代マラソンで大活躍した大切な足、35歳の時、仕事中の事故で医者に切断しなければならないと言われた時も、マラソンを走った大切な足だから切らないで欲しいと言い続け闘病されたという事です。

奥さんは「小さい子どもを抱えて、家族の世話をし、田んぼや畑に行き、主人の看病もして大変だった。」と言われています。

奥さんの支えと、一口さんのもう一度鍛えた大切な足で歩きたい、生きたいという強い思いが気力と体力の回復につながったのではないでしょうか。

自立に向けて

現在、一口さんは毎朝一人で散歩に出掛けられます。1時間半程ゆっくり歩かれ、体育館近くの田んぼを見にいかれます。散歩に出て、友達やご近所の方と話すのが楽しみ、皆が気軽に声を掛けてくれるので嬉しいと言われます。若い頃から地域の活動に参加され、ご近所を大切にしてこられた事が、現在につながっているようです。気さくなご夫婦のお人柄ですね。一口さんは、ヘルパーさんは精一杯介護してくれる。自分一人ではここまで回復しなかった、介護はもちろん、よく話を聞いてくれて精神的にも支えになった、福祉の時代になり今日の日は皆さんのおかげと感謝されます。寝たきりだった頃に訪問していたヘルパーは、一人で散歩に出られると聞いてびっくりしていました。一口さんに訪問させてもらって向日市の昔の話を詳しく聞かせてもらい楽しかった、こんなにお元気になられて本当に良かったと言います。寝たきりの時から、一人で散歩に出られるまでの姿を見せて頂けた事は、ヘルパーとしても、とても励みになりました。

どうぞいつまでも若々しい一口さんご夫婦でいてくださいね。

登録ヘルパーさんを募集しています

ヘルパー資格２級以上をお持ちの方、 お気楽にお電話下さい。
お問い合わせ先
向日市社協ホームヘルプセンター （TEL:932−1968）

健康教室の取り組みについて

介護予防と言う言葉をご存知でしょうか？年を取っても、いつまでも健康で頂く為に何かその予防策がないものか思案されているものです。病気や身体の衰えが無いうちに、何か出来る事は無いのでしょうか？

今、世間は健康ブームで、色々な健康グッズや健康食品、健康関連商品がもてはやされています。ですが、全部取り込む事はなかなか容易ではありません。皆さんの興味のある事、出来そうだなと思う事から始めてみませんか？

向日市の在宅介護支援センターでは、平成16年12月と平成17年1月、3月にそれぞれ健康教室を開催しました。

健康教室への参加を通して、自分の健康について考え、いつまでも健康に過ごして頂く為のきっかけ作りに役立てて頂けたらと思っております。

平成16年12月第1回目の開催内容は、「転ばぬ先のリハビリテーション」という内容で、京都第二回生病院の理学療法士の先生に解りやすく、楽しく講義をして頂きました。どうして、年を取ると身体が曲がってくるのでしょう。自宅のどの辺りでの転倒が多いのでしょうか。等々、興味深いお話が続きました。

平成17年1月第2回目の開催内容は、「活き活き健康体操」という内容で、京都府健康体力づくり協会の先生をお呼びし、タオルを使って、楽しく遊びながら身体を動かしました。20名程の参加があり、1人ではなかなか身体を動かす事が億劫ですが、仲間がいれば、会話も弾み自然と身体を動かす事が出来ました。

平成17年3月第3回目の開催内容は、「転ばぬ先のリハビリテーション2」という内容でした。向日市の在宅介護支援センターでは、今後も健康教室を開催する予定です。60歳以上の方で、各自で会場まで来られる方が対象で、参加費は無料です。参加申し込みは、各支援センターまでお電話下さい。お待ちしております。

ケア回生在宅介護支援センター
電話　934－6887
向日市社協在宅介護支援センター
電話　921－1550
在宅介護支援センター向陽苑
電話　921－4100

デイサービス職員用ユニフォームが新しくなりました。

装い新たに、利用者の皆様へ今まで以上のおもてなし

主に食事準備の時間にこの新衣装（はんてん、三角巾）に着替えて皆様へ配膳。職員より利用者の皆様を〝もっともっとおもてなしたい〟という希望により、この衣装に決定しました。利用者の皆様より、「外食に来たみたいだ。」と好評の声をいただいております。

ボランティア活動へのご案内

向日市デイサービスセンターでは、利用者の皆様へのお話相手、入浴後の整髪、お茶だし、その他趣味活動のお手伝いに、ほぼ毎日ボランティアの方にご活躍いただいております。ボランティア活動に興味のある方、一度ご連絡ください。お待ちしております。

現在ご活躍されているボランティアの皆様（敬称略）

個人

井口公博　奥田恵子
京嶋靖子　城みどり　城ゆかり
杉田京子　杉田信雄　瀧本節子
田中義子　長谷川芙美恵　諸岡敏枝
山下紀代子

団体

あゆみ会
踊り　くれたけ
コスモス
さつき会
トロピカルフラダンス　ナルク
南京玉すだれ　西山高校ＪＲＣ
西山短期大学　ひまわり
ブーフーウー京都　みずき
向日ハーモニカクラブ　来夢来人
絵手紙ひまわりの会
京都セラピードッグクラブ
サークル・プラスワン
すみれコーラス

その他たくさんのボランティアのみなさん、いつも本当にありがとうございます。

生きがいデイサービスのご案内

おおむね65歳以上で、介護保険の認定を受けていない次のような方、ご利用いただけます。

- ○人との交流を増やしたい
- ○外出がしたい
- ○友達をつくりたい
- ○趣味の活動を楽しみたい
- ○送迎をしてほしい

関心のある方、及びご家族の方は是非一度ご連絡ください。

平成16年度秋祭りドレスアップショーで素敵に変身

▶お問合せ先

向日市デイサービスセンター（向日市福祉会館内　931-3294）
向日市役所（障害者高齢者支援課　931-1111）

『子育て支援事業』への取り組みを開始しました！

子育て支援講座

開　催	講　　演
第１回（平成16年６月開催）	子どものいろいろな病気について～家庭でできることあれこれ～
第２回（平成16年６月開催）	社会全体で取り組む子どもの事故防止について
第３回（平成16年10月開催）	子どもとアレルギー～小児科のお医者さんのお話・アレルギーって何だろう？～
第４回（平成16年12月開催）	子どもを守る心肺蘇生法～いざという時のために～

向日市社協では、平成16年度から本格的に『子育て支援事業』への取り組みを開始しました。

その代表的な取り組みのひとつとして、国際ソロプチミスト京都―西山と向日市子育てセンター「すこやか」との共催により、年４回「子育て支援講座」を開催しました。

「子育て支援講座」では、小児科のお医者様を講師にお迎えして、子どもの病気や事故防止等をテーマにご講演いただくとともに、向日消防署の救急救命士の方を講師にお迎えして、乳幼児の心肺蘇生法をテーマにご指導いただきました。

受講された方からは、受講者アンケートを通じて、「日頃の子育てにおける悩みが軽減された」、「講師と受講者の距離が近い分、気軽に質問することができた」、「保育ルームに子どもを預けることができたので、講演に集中することができた」等の喜びの声が多数寄せられました。

向日市社協では、平成17年度においても、毎回テーマを変えながら、「子育て支援講座」を継続して開催していく予定ですので、乳幼児を子育てしておられる方はもちろんのこと、子育て支援に関心のある方もお気軽にご参加下さい。

福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）のご案内

住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために

痴呆や知的障害、精神障害のある方を対象に、住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために必要な福祉サービスの利用をお手伝いしています。

お手伝いしている内容は、福祉サービスに関する情報提供や助言、利用手続きや日常的金銭管理等です。

事業の内容や利用方法、利用料金等の詳細については、お気軽に向日市社協地域福祉係までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先　向日市社協　地域福祉係（TEL：932－1961）

平成16年度社協会員会費報告

平成17年1月14日現在

皆様からいただきました会費は、来年度の事業運営に有効に活用させていただきます。

地区	一般会費 一口500円	特別会費 一口3,000円	名誉会員 一口10,000円	賛助会員 一口5,000円	合計
物集女	984,500円	12,000円			996,500円
寺戸	1,889,210円	102,000円	10,000円		2,001,210円
森本	440,400円	30,000円			470,400円
鶏冠井	574,500円	60,000円			634,500円
上植野	646,400円	60,000円			706,400円
向日	138,500円	18,000円			156,500円
西向日	199,900円	15,000円	10,000円		224,900円
向日台	155,800円	15,000円			170,800円
市内全域				890,000円	890,000円
合計	5,029,210円	312,000円	20,000円	890,000円	6,251,210円

あたたかい善意とご協力をありがとうございました

平成16年度赤い羽根共同募金＆歳末たすけあい運動結果報告

■募金結果

地区・種別	赤い羽根	歳末たすけあい
物集女	639,300円	690,473円
寺戸	1,368,670円	1,690,469円
森本	367,330円	395,708円
鶏冠井	429,400円	523,196円
上植野	462,300円	532,970円
向日	113,900円	137,050円
西向日	158,500円	193,200円
向日台	104,370円	109,921円
大口募金	182,000円	0円
街頭募金	6,874円	15,499円
職域募金	58,984円	1,077円
合計	3,891,628円	4,289,563円

善意のご寄付ありがとうございました。

（平成16年10月５日～平成17年１月26日）

吉井孝一　様	35,000円
畠中　稔・真優　様	4,990円
京都府トラック協会乙訓支部　様	40,000円
東向日キリスト教会　様	10,000円
医療法人回生会第二京都回生病院　様	50,000円
向日市グランドゴルフ協会　様	20,000円

■配分金使途

寄せられた善意は、このような事業に使わせていただいております。

○赤い羽根共同募金

- 障害者福祉事業（きこえと補聴器の教室の開催等）
- 母子・父子福祉事業（小・中学校卒業記念交流事業等）
- 児童青少年福祉事業（子育て支援事業「人形劇」）
- 福祉育成事業（福祉パレットの発行、ホームページの管理運営、向日市地域学校事業助成、困りごと相談等）

○歳末たすけあい運動

配分先		配分金額
ふとん洗濯・乾燥事業		609,380円
防犯・防火機器設置事業		583,380円
団体助成事業	乙訓手をつなぐ親の会	30,000円
	乙訓障害者父母の会	17,000円
	さくらんぼの家	40,000円
	働く仲間の集い実行委員会（友愛の郷・友愛印刷）	100,000円
	向日市ろうあ協会	50,000円
	向日市難聴者協会	20,000円
	京都府視覚障害者協会向日市支部	15,000円
	乙訓心臓病の子どもを守る会	10,000円
	向日市原爆被災者の会	40,000円
	がんばクラブ	30,000円
	地区社協育成費	400,000円
	向日市介護者の会	20,000円
	乙訓聴覚言語障害者デイサービスセンター	249,000円
法外援護資金		50,000円
お節料理補助		1,093,040円
ボランティア支援事業補助		380,000円
在宅福祉・地域福祉物品		250,000円
事務費		302,763円
合計		4,289,563円